

# 「2つの気候変動対策」どちらも欠かせません！

気候変動には、もうひとつ大切な対策があります。それは、気候変動の原因とされる温室効果ガスの排出を抑える「緩和」です。影響に備える「適応」とともに、どちらの努力も続けることが大切です。



## 「適応」が創造する新しい社会

「適応」は、気候変動によって生じる新たな被害、大きな災害に備えるための対策といった側面が多いことも事実です。一方で、例えば企業にとっては、気候変動による様々な影響に積極的に向き合うことにより、社会に役立つ新たなビジネスを生み出すことができるといった可能性もあります。

また、日本の「適応」に関する新しい技術開発や取組は、気候変動による影響がより深刻な他の国や地域への貢献にもつながります。特にアジア太平洋地域ではその重要な役割が求められています。

私たち一人ひとりが「適応」について、理解を深め、行動していくことは、日本の未来の世代のために必要なことであると同時に、世界中の人たちにとっても大変重要なのです。

# 未来のために今はじめよう！

## 気候変動の影響への

# 「適応」



目で見る  
適応策

気候変動によって、以前よりも今の方が暑くなって（地球温暖化）いたり、雪の降り方が変わってきたりしています。また、近年、短時間で降る大雨が増えてきたと感じている方も少なくないのではないのでしょうか。

暑さが厳しくなった



雪の降り方が変わってきた



短時間で降る大雨が増えてきた

こうした気候の変化は、私たちの食べる物やみなさんの健康などにも様々な「影響」を与え、しかも、その「影響」が今後、さらにひどくなっていくかもしれないのです。

今までいなかった病気を媒介する虫が様み付くようになるかも…



農作物の品質が下がり、収量が減るかも…

気になった方は、ページをめくってね

では、どうしたらいいのでしょうか？



気候変動の影響への適応に関する様々な情報を提供しています。  
「気候変動適応情報プラットフォーム」ホームページ  
[www.adaptation-platform.nies.go.jp](http://www.adaptation-platform.nies.go.jp)



# その答えのひとつが、気候変動の影響への「適応」です。

「適応」とは、気候変動の影響にあらかじめ備え、社会の仕組みや、一人ひとりの生活のあり方を変えることを言います。



## 例 1 食を守るための「適応」

気温の上昇や強い日射によって、お米や、リンゴ、ミカン、トマトなどの農産物に品質低下という影響が既に現れています。お米であれば高温に強い品種に変えたり、暑い時期から作付け時期を調整したり、リンゴやトマトであれば日よけで強い日差しから守ることなどが影響への対策、「適応」といえます。



高温に強い品種に変える。作付け時期を調整する。 リンゴの日焼け（品質低下）を防ぐために、日よけを設置する

## 例 2 気象災害から暮らしを守るための「適応」

大雨による河川や下水道の氾濫、それにより生じる浸水被害を防ぐためのインフラ整備や、いざという時に安全に避難するための警戒避難体制の強化をすることも被害を減らすための「適応」といえます。

私たち一人ひとりが、天気予報や防災アプリを確認したり、洪水被害予想地図（ハザードマップ）や避難経路を確認し、気象災害に備え身を守る準備をすることも重要な「適応」といえます。



天気予報や防災アプリ等の確認

洪水被害予測地図（ハザードマップ）等の確認



雨水貯留槽など（インフラ整備の例）

## 例 3 健康を守るための「適応」

気温の上昇により、熱中症で搬送される人の数が増えたり、病気を媒介する蚊の北上などの影響が出ています。

水分補給をこまめにしたり、エアコンを適切に使用することによって熱中症を予防したり、虫刺されに気をつけるなど、一人ひとりが自身の健康を守るために行動することも「適応」なのです。



こまめに水分補給したり、エアコンを適切に使い熱中症予防をする。

虫よけスプレーなどで虫刺されに気をつける。

蚊の育つ水たまりなどを作らない。

取組みは既に始まっている！

# 「適応策」はすぐ近くにもある！



実は、「適応」は身の回りでも既に取り組みられています。行政（国や地方自治体）が行うものもあれば、企業や個人が行えるものもあります。みなさんも知らない間に「適応」を行っているかもしれませんね。



他にもまだまだ沢山の「適応」があります。これから新しく生まれる「適応」もきっとあります。

※ここでの要因は気候変動に関連するものを一例として挙げています。

※このページの情報は2018年時点のものです。今後内容が変更する可能性もありますので、ご了承ください。

出典 1：農林水産省「平成27年地球温暖化影響調査レポート」（<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyondanka/attach/pdf/index-3.pdf>）

出典 2：国土交通省「わかまちハザードマップ」（<https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/>）

出典 3：気象庁ウェブサイト「高解像度降水ナウキャスト」（<https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>）（2018年1月15日に利用）

出典 4：第4回 大規模水害対策に関する専門調査会資料 5「東京メトロの水害対策」（[http://www.bousai.go.jp/kaigirep/chuobou/senmor/daikibosugai/4/pdf/shiryu\\_5.pdf](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/chuobou/senmor/daikibosugai/4/pdf/shiryu_5.pdf)）

出典 5：環境省パンフレット「全国自然再生の取組み 自然との共生を目指して」（[https://www.env.go.jp/nature/saisei/network/relate/li\\_4\\_1/10.pdf](https://www.env.go.jp/nature/saisei/network/relate/li_4_1/10.pdf)）